

「東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース」の評価と可能性

児玉 関¹⁾，大谷 裕¹⁾，黒沢 俊典²⁾，生崎 実²⁾，松田 真美²⁾

¹⁾東邦大学医学メディアセンター，²⁾医学中央雑誌刊行会

医学中央雑誌刊行会と東邦大学とは、2014年4月から「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」の公開を開始した。両機関はそれまで別々に診療ガイドライン情報を公開していたが、それぞれに課題も認識していた。このような双方が抱える課題は、協力しあうことで解決が可能と考え、両機関による検討を重ねた結果、2014年3月に業務連携を行うこととなった。

両機関の連携は、自らの運営負荷軽減のためだけではない。双方が公開する診療ガイドライン情報は、医学中央雑誌刊行会側は雑誌掲載のガイドラインは広く収集しているが、図書、Webは対象外、東邦大学側は図書、Webをも対象としているなど、収集範囲が異なっていた。このため診療ガイドライン情報を網羅的に探す場合は、両方の公開情報をチェックしなければならなかった。しかしこれらが一本化されることで、一度のチェックで網羅的検索を実現できる。

本発表では、「東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース」について、医学中央雑誌刊行会と東邦大学とによる1年間の取り組みを振り返りながらその活動を評価するとともに、今後の可能性について紹介する。



図1. 「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」トップページ